

<健康チーム>

【児童生徒の実態】

- ・全体的に体力向上に対する意欲が低く、運動への関心において男女差がある。また、種目によっても児童生徒の意欲の高さに差が見られる。
- ・立腰指導は定着してきたが、その効果の理解では、不十分な部分がある。
- ・朝食を食べる児童の割合は高いが、内容に関して課題のある児童生徒が見られる。また、食べてこない理由として、生活リズムの乱れを挙げている児童生徒が多い。

【部会のねらい】

- ・体育での安全指導や身体の使い方、体力向上について、小中の発達段階に応じた指導を行う。
- ・朝食摂取の充実と身体作りの意識の向上を図る。

視点	<A> 教育課程の工夫改善	 教育活動の連続性の確保	<C> 教職員間の連続・協働	<D> 家庭・地域との連携・協力
----	------------------	--------------------	-------------------	---------------------

取組	<p>①11月「体力向上月間」の実施、外遊び・持久走練習の奨励、体力向上ブースの運営、二中学区体操の実践</p> <p>②立腰指導、姿勢ストレッチの継続や各校の学校保健給食委員会参加による健康課題の情報共有</p> <p>③中学生による献立作成や朝ごはん毎日食べよう週間の継続、朝ご飯の呼び掛けの実践</p> <p>④「二中学区健康だより」の発行</p>
成果	<p>①体力向上ブース・持久走練習の時間を設けることで、運動習慣のない児童生徒の体を動かす時間確保ができた。また、小学校ではビンゴを取り入れることで、楽しみながら体を動かすことにつながった。ブースには、体力テストの結果を掲示することで、個々の目標が明確になり体力向上への意欲が向上した。</p> <p>②立腰への意識が定着した。また、その効果を伝えることで事後アンケートでは、意識の変容も見られた。</p> <p>③朝ご飯食べよう週間では、家庭への啓発にもつながった。</p> <p>④健康習慣の定着は、学校と家庭の連携した働き掛けにより、成果が現れるものである。学校での実践内容を、家庭へ伝えることで、家庭への意識向上につなげた。</p>
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・校内行事との兼ね合いをみて、体力向上月間は実施時期・方法の検討が必要である。 ・立腰への意識をより定着、習慣化させるため、年間を通して継続させる手立てや飽きさせない工夫が必要である。 ・中学生作成献立や、体力向上月間中の献立作成時の工夫、作成意図を伝え、残食を減らす工夫が必要である。

体力向上ビンゴ(小学校)



献立作成の様子(二中)



体力向上ブースの様子(緑小)



朝の立腰タイム(祇園小)

